令和４年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立舎人第一小学校
校長　澁谷　あゆみ

１　学校教育目標

・よく考え　くふうする子　　・すなおで　思いやりのある子　　・たくましく　やりぬく子

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・一人一人が輝く学校 ・協働する学校 ・信頼される学校
○児童・生徒像	・素直であたたかい心をもち、自他を尊重できる子ども ・基礎・基本が定着し、主体的・対話的で深い学びを実現できる子ども ・心身ともに健康で、最後まであきらめずにやり遂げる子ども
○教師像	・教育の専門職としての力量と自覚をもった教師 ・明るく誠実に職務に取り組む教師 ・一人一人の児童の良さを伸ばせる教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

〔学校の現状について〕
・地域や保護者は、学校教育への関心が高く、支援体制が確立している。お米づくり、季節の花などの栽培活動、清掃活動などを継続的に共に活動し成果を上げている。開かれた学校づくり協議会と現ＰＴＡ役員との協力体制が強く、運営について伝統的に継承されている。学校行事への支援も厚く、１２月実施のジョギング大会では応援だけでなく警備や見守りを連携して行っている。
・素直で感性豊かな児童が多い。学校行事や集会等で高学年が率先垂範し、下級生の良き見本となっている。
・教職員は、児童の学習意欲を高める授業を展開できるよう、教材研究に励んでいる。若手が多いが中堅と一体感を持って指導に当たっている。教員採用一校目の教員が全体の半数以上、また 10 年未満の教員が約７割を占めているため、教師の授業を始めとする指導力向上に努めているまた、昨年度児童に配布されたタブレットの他、ＩＣＴを活用した授業が全学級で実施されている。今年度も学力向上に向けた活用を進めていく。
・昨年度一昨年度の校内研究では特別の教科道徳を中心に授業研究を行った。今年度は東京都人権尊重教育推進校として取り組んでいく。
・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、共有箇所の消毒の他、授業中のマスクの着用や毎日の検温等の健康観察を継続する。感染防止対策を講じた上で、授業や行事等を工夫し行っていく。

〔前年度の成果と課題〕
１　学力の向上
　教員の授業力向上を図るため、足立スタンダードを活用した授業の実施とともに、２年間を通して特別の教科道徳の校内研究に取り組んだ。講師を招いての授業研究は３回実施したが、教材を通して自分自身を振り返ったり主題に迫るため考えを深めたりする活動は、豊かな心の育成につながるだけで

なく、他の教科においても自分で考え取り組む姿勢を育成することにつながっている。また学年毎に同じ資料を用いて指導案を作成し授業を行いその振り返りを通して成果を共有するなど、積極的に授業改善に取り組んだことで、若手教員を中心に指導方法や授業の進め方なども学ぶことができ、他の教科の指導にも活用できた。

放課後補習教室を日常的に行っている。家庭学習強化週間を年間２回実施（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、２月は中止）し、普段の宿題に加え学年毎に示した課題についても取り組ませ、主体的に深く考える力の育成や学習習慣の定着を図った。全学級でねらいを明らかにした授業を行い、またＩＣＴを活用し、視覚的にもわかりやすい授業を工夫するなど子供に学ぶ喜びを実感させてきたことで、学習についての児童アンケートでは「授業がわかる」という児童が９２％であった。今年度もさらにそれを進め、指導力向上と確かな学力の向上を図っていく。

子供たちの学力を高めるためには、教師の指導力向上は欠かせない。令和４，５年度東京都人権尊重教育推進校として授業実践を行い、また校内のミニ研修会で教科指導専門員を講師にするなど指導力を高める機会は年間を通して実施していく。

２　豊かな心の育成

学校行事における複数学年での活動やたてわり班活動等の異学年交流、俳句作り等を通して、子供たちの心を育むことができた。幼稚園・保育園との交流は感染防止対策を講じて実施した。今後も連携園と交流を図っていく。児童が「学校は楽しい」と感じる割合は９３％（R３）であり、これまでの取組を継続していく。

令和４，５年度東京都人権尊重教育推進校として人権課題や授業の他、日常的な取組を工夫し、子供たちの自己肯定感を高め、自分とともに他を大切にできる児童、課題に自ら取り組む児童の育成を図る。

３健やかな身体の育成

体力づくりの習慣化と定着をめざし進めてきた外遊びや縄跳び運動を継続してきた。令和３年度は東京都教育庁より子供の体力向上推進優秀校として表彰された。

「毎日３０分以上の運動習慣」８６％だったが、今年度は９０％を目指し今後も児童の体力向上に努めていく。

また、養護教諭や栄養士による健康教育や食育等を通して、健康について関心をもち、進んで健康を保持増進させようとする活動を継続する。

4　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	健やかな身体の育成	○	○	○	○	○
4	幼保小中の連携	○	○	○	○	○

５　令和４年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
・児童の主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業 ・自分の考えを伝えたり相手の考えを聞きさらに自分の力を伸ばしたりできる児童の育成を図る授業	２月の区学力調査で４月比平均点＋３点をめざす。（目標通過率７５％） 年度末児童アンケート「授業はわかる」９０％。	区学力調査で目標通過率は、８１％で達成基準は超えることができた。 また、年度末児童アンケート「授業はわかる」９０％と達成基準と同じ数値をとることができた。	「授業はわかる」は達成基準ぴったりであった。９０％という数値は、評価できるが、これに甘んじることなく１００％に近づけていく努力を続けていきたい。	◎

Ｂ　目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	AI ドリルの活用	３～６年	年間	３～６年担任 キュビナを活用した授業	週案への記載、授業観察 職員会議報告	活用は全児童	週案への記載、授業観察時全クラス実施できていた。	朝学習の時間、３年以上の学級はキュビナを常時活用できていた。	○
2 継続	教員の指導力向上	全教科	年間	・校内研究授業年間３回 ・小中連携授業年間２回 ・教科指導専門員の指導 ・年次研での研究授業	協議会の実施 指導報告書	・学力調査結果：前年度比＋３点 ・卒業対象２名	・学力調査、前年度比＋３点は大きく上回り達成。 ・卒業対象２名卒業決定。	教科指導専門員のご指導により若手教員が指導力を向上。小中連携授業で、主体的に「選択」させる指導を共有できた。	◎
3 継続	ICT を活用した授業	全教科	年間を通して実施	・デジタル教科書の活用（算数） ・授業の導入や振り返り ・調べ学習で活用（高学年）	年間指導計画 授業観察、週案等	毎日１回以上の活用	毎日一回以上、全クラス活用。	調べ学習や、キュビナは全クラス活用できている。意見交流できるジャムボード等の活用はまだ少ない。	○
4 継続	学校図書館の活用	全教科	週１回以上	・読書時間の設定（週１） ・調べ学習での活用（年３回以上）	・週案への記載 ・調べる学習コンクール参加	・図書３０時間 ・コンクール参加１０件以上	図書３０時間は達成。コンクール参加は１件のみで目標値は達成できなかった。	調べる学習コンクールに対しては、子どもたちへの動機付けの機会を設定していく。	△

5 継続	家庭学習強化週間	主に国語算数	年間３回（５、９、１月）	・家庭学習時間の定着（学年×１０分） ・学年で示したテーマに沿った学習の実施	・担任による提出率の確認	提出率９０％	提出率９７％と目標値を大きく上回り、達成した。	家庭学習の在り方について教員と認識を共有していく必要がある。	◎

重点的な取組事項－２	豊かな心の育成

Ａ　今年度の成果目標	**達成基準**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
学校生活の満足度及び自己肯定感の向上	年度末児童アンケートで９０％以上	年度末児童用アンケートで学校生活満足度は８９．３％。基準を僅差で達成することはできなかったが、評価できる数値である。	６年生の学級が落ち着くのに時間を要した。４月当初の「学習規律」を築くことが課題。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	**達成基準**	**具体的な方策**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
自分とともに他も大切にする児童の育成（いじめ防止）	児童アンケート９０％	・毎月のいじめアンケートの実施 ・５年全員のSC面談 ・年度末児童アンケート実施	毎月のいじめアンケートを実施し、いじめの件数が１４件から３件に確実に減少した。	年度末の児童アンケートに評価項目の質問を設定していく。	△
人権尊重教育の推進	自己肯定感に関する調査結果の向上（＋３点）	・「意識に関する調査」の実施	自己肯定感６９％	年度末の児童アンケートに評価項目の質問を設定していく。	△
差別や偏見の防止	差別や偏見に関する指導の実施（年４回）	・校長講話 ・生活指導朝会の活用	差別や偏見に関する指導は、校長講話や生活指導朝会で実施。	差別や偏見に関して、マイナスの話だけで無く「自信」をつけて克服するプラス面も伝える。	○
交流活動の推進	異学年交流年間６回	・縦割り班活動 ・異学年との交流活動	縦割り班活動を感染対策をしながら実施できた。	縦割り班遊びだけでなく、活動の幅を広げていきたい。	○
障がい者理解の推進	人権課題「障がい者」を各学年で１回以上実施	・講演（お話会） ・パラアスリートとの交流 ・アイマスク、白杖体験	講演会、パラアスリートとの交流や体験活動を実施できなかった。	体験活動を、実施学年を決め、年間計画に設定していく。	△

重点的な取組事項－３	健やかな身体の育成

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
運動習慣の定着	１日３０分以上､外遊びか運動をする児童９０％	年度末児童用アンケートで「毎日３０分以上運動する」が 73.4%、「運動や身体を動かすことが好きだ」82.9%と目標値に達しなかった。	３０分以上運動するという意識をもつ子の達成はできなかったが、身体を動かすことは好きな子が多いので、鬼ごっこ等クラス遊びが増えるような取り組みをしていく。	Δ

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力づくりの取組	・長縄チャレンジ（１０月と１月の回数比較） ・ジョギング大会での全員完走	体育行事担当を中心に ・１０月と１月の比較表掲示 ・体育授業での継続的な取組 ・体育朝会の実施 ・走力カードの活用	・ジョギング大会(マラソン大会)では、ほとんどの子どもが完走したが、できない子もいた。 ・体育朝会は実施できた。 ・走力カードは活用した。	体力作りの取り組みはほぼ目標を達成することができた。	○
健康教育の推進	口腔内の健康推進 むし歯未治療ゼロ	・養護教諭を中心に全校で発達段階に応じた指導 ・講師による指導（１年） ・歯磨きカードの活用	・むし歯未治療６３名中、未治療２８名。	・具体策に関しては実施することができているが、未治療ゼロにはならず、家庭の啓発必要。	Δ
食育の推進	食に関する取組（年６回） 残菜ゼロ運動の実施	・食育担当と栄養士を中心に栄養や食事についての指導 ・地域の講師による食についての授業を実施	・食育担当の教員と栄養士が中心になり、熱心に食育を進めている。 ・年６回の残菜ゼロ運動も有効に児童に食育に関与している。	・もりもりウィークを中心に子どもたちに「フードロス」に関する意識が育っている。	○

重点的な取組事項－４	幼保小中の連携

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
連携校との交流活動の活性化	幼保小及び小中連携事業の実施	すべての事業を実施することができた。	幼保小中交流給食を始め、それぞれの授業や保育参観を実施することができ、理解を深めることができた。	◎

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
中学 研究授業を中心とした授業研究	授業公開を年間２回 授業参観を年間１回 体験授業を年間１回	・連携校で研修日を設定し実施	１０回の小中連携合同研修を実施することができた。	合同研修によって、３校の実態を理解することができた。	◎
中学 教育活動の交流	連携校等との交流実施	連携校の授業体験、部活動体験への参加	授業体験、部活動体験を実施することができた。	中学校の教育活動への理解を深めることができた。	○
幼保 幼児児童との交流	連携園との交流 年３回	園児の保育を参観 小学校行事への招待 教員交流	連携２園の保育を参観し、運動会・音楽会・交流給食に招待し、教員の交流も実施した。	互いの教育活動への理解が深まった。	◎

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

「一人一人が輝く学校」という学校像を実現するために「自律」した児童・教師の育成に取り組んだ１年であった。６年生が落ち着かない時期はあったが、教育委員会及び全教職員で支援体制をつくり支えたことで、児童が落ち着いていったことは教職員にとっても児童にとっても自信となった。また児童にとっては、各教科の学習を通して、課題に対して自分たちが予想したこと考えを調べたり実践したり、深めたりしていくことで課題解決されていく体験ができたことは生きていく上で大切な力をつけた。来年度は、４月から６年生がリーダーシップをとって全校児童を引っ張っていく学校を目指したい。また、教職員も「自ら課題を見つけ、解決方法を考え提案する」姿に変容した。これからも「考える児童」を育てていくために「考える教師」「考える組織」をつくっていきたい。

（２）保護者や地域へのメッセージ

年度末学校評価で「学校が開かれた」という評価をもらえたことはよかった。今後は、学校公開の時だけでなくもいつでも来たいときに児童の様子を見に来られる本当の意味での「開かれた学校」を目指していきたい。また、どんな些細な心配事でも保護者が学校に相談できるように「聞く耳をもつ」学校でありたい。